

# 名誉市民

## 小千谷が生んだ偉大な詩人

**西脇 順三郎** (推戴 昭和39年7月28日)  
明治27(1894)年～昭和57(1982)年

明治27(1894)年に小千谷で生まれ、88歳で生涯を終えるまでに、詩人として英文学者として多数の著作を残した西脇順三郎。処女詩集「ambarvalia(アムバルヴァリア)」、詩集「旅人かへらず」「第三の神話」などの作品は、現代詩壇に大きな影響を与えました。昭和46(1971)年には文化功労者に選ばれました。昭和53(1978)年、小千谷市立図書館に「西脇順三郎記念室」が開設されました。



## 小千谷と新潟県の実現に貢献

**西脇 清三郎** (推戴 昭和39年7月28日)  
明治13(1880)年～昭和37(1962)年

小千谷の富豪西脇国三郎(雲林)の長男として生まれ、学習院に学んだ後イギリスに渡り、明治41(1908)年ケンブリッジ大学を卒業。帰国後、西脇銀行を創設しました。その後、新潟県農工銀行、小千谷銀行の取締役、太陽生命社長を歴任。その間、公共事業に巨額の寄附をし、さらに育英資金を出資して、人材の養成に尽力するなど、県内の産業・教育の発展に寄与しました。



## 日本の経済・文化・スポーツ界の重鎮

**金子 鋭** (推戴 昭和44年11月18日)  
明治33(1900)年～昭和57(1982)年

東京帝国大学政治科を卒業後、富士銀行(旧安田銀行)に入行。富士銀行頭取、同会長、プロ野球コミッショナー、東京商工会議所副会頭などを歴任し、日本の経済・文化・スポーツの隆盛に寄与し、小千谷市の発展に多大な貢献をしました。金子氏の胸像が、小千谷市白山運動公園内の野球場近くに建立されています。



## 昭和の森林経営学の第一人者

**佐藤 弥太郎** (推戴 昭和44年11月18日)  
明治22(1889)年～昭和46(1971)年

東京帝国大学農科大学林学科卒業後、東京帝国大学講師、林学研究のための海外留学を経て、京都帝国大学教授に。森林の天然更新技術に関する調査・研究を行いました。著作に「スギの研究」などがあります。昭和時代の森林経営学を牽引し、京都帝国大学農学部長、学術研究会議員などを歴任しました。



**妙高寺**  
木造愛染明王坐像  
【国指定文化財】

妙高寺本尊の愛染明王坐像は、檜材の寄木造りで、鎌倉時代後期の作。美しい彩色と激しい憤怒の表情が特徴的で、染物関係者の信仰が厚く、縁結びの仏様としても有名です。毎月26日に開帳されています。



**明石堂**【市指定文化財】  
江戸時代初期に小千谷に移り住んだ明石出身で小千谷縮の創始者堀次郎将像を祀っています。縮商人の出資により、嘉永元(1848)年に建造されました。総檜造りのお堂で、精巧な彫刻が施されています。



**魚沼神社 阿弥陀堂**  
【国指定文化財】  
中世の武将から信仰を集めた魚沼神社にある阿弥陀堂は、永禄6(1563)年の建造。方三間一重宝形造、茅葺きのお堂で、豪雪に備えた軒先の短い造りが特徴的です。



# おぢやの宝物 先人物

歴史 名誉市民

人々に愛されてきた  
微笑む仏様三十五体

木喰上人作  
三十三観音他二像  
【県指定文化財】

小栗山地区の木喰観音堂には、如意輪観音像をはじめとする三十三体の観音像と行基菩薩・大黒天像が奉納されています。これらの仏像は、江戸時代後期の遊行僧木喰上人が86歳の時、享和3(1803)年8月にこの地に滞在して彫り残したものです。大きく孤を描いた目、深い笑みをたたえた口もとなどが特徴的で、その表情から「微笑仏」として愛されています。原材はイチヨウで、地元住民総出で運びあげた巨木と伝えられています。毎月17日を開帳日としています。



**慈眼寺**  
訪れると最初に目を奪われる立派な山門は「仁王門」とも呼ばれ、明治25(1892)年に建立されたものです。境内には弘法大師作と伝えられる本尊聖観世音菩薩が祀られた観音堂、戊辰戦争時の談判を記した「会見記念碑」、「河井・岩村会見の処」があります。



**司馬遼太郎の「峠」文学碑**  
信濃川にかかる越の大橋の西詰には、北越戊辰戦争の舞台となった榎峠と朝日山を見守るように一つの碑が建っています。碑の表と裏には、河井継之助の生きざまを小説「峠」で描いた司馬遼太郎の直筆が刻まれています。



**朝日山古戦場**  
【市指定文化財】  
北越戊辰戦争の際、特に激しい戦いが繰り広げられた朝日山では、両軍の大砲小銃が絶え間なく響き渡ったといわれています。山頂付近にはフランス式塹壕や野営場の跡が残っています。



**河井・岩村会見の処**【市指定文化財】  
慶応4(1868)年、反抗勢力の制圧に乗り出した新政府軍(西軍)が、幕府領だった小千谷に迫る中、長岡藩家老・河井継之助は抗戦か恭順かを巡る藩論を抑えて、「武装中立」を主張しました。迫り来る西軍に対して防戦態勢を整えた継之助は、同年5月2日小千谷の西軍本陣に乗り込み、慈眼寺において軍監の岩村精一郎と会談に臨みます。継之助は非戦を訴え、西軍の侵攻停止を訴えましたが、願いは聞き入れられず、会談は決裂。継之助は徹底抗戦を決意し、北越戊辰戦争の激戦が始まりました。継之助と岩村が談判した慈眼寺の「会見の処」では当時の様子を偲ぶことができます。



**東忠**  
慈眼寺での会談が決裂した河井継之助。無念の思いを抱きながら郷宿に帰る途中、料理屋東忠へ立ち寄り遅い昼食をとりました。食事をした部屋が当時のまま残されています。



**船岡公園西軍墓地**  
市街地南部の小高い丘にある船岡公園内には西軍墓地があります。北越戊辰戦争における戦死者は周辺寺院などに埋葬されていましたが、明治40年頃有志により現在の地に集められ改葬されました。